

国際会議参加報告

—米国 2017PCI Convention (Japan Session) —

東京建築支店 建築設計部 PC 設計グループ 今村雅泰

1. はじめに

PCI (Precast/Prestressed Concrete Institute) はプレキャスト/プレストレストコンクリートに関する米国の工学協会で、毎年 PCI Convention and National Bridge Conference を開催している。今年は 2017 年 3 月に米国オハイオ州クリーブランドで行われ、特別セッションとして日本の最新技術情報を報告する「Japan Session」が PCI の Larbi 博士の主催にて行われた。日本からは建築 4 名（代表：京都大学大学院西山峰広教授）、土木 3 名（代表：長岡技術科学大学下村匠教授）の 7 名（写真-1）が発表し、筆者は“Japanese Experience in Precast/Prestressed Building Construction”と題された講演の一題目を発表した。本項では「Japan Session」および、米国のプレキャスト「以下、PCa」工場の視察内容について報告する。

2. PCI Convention (Japan Session)

本国際会議は 2 月 28 日～3 月 4 日の 5 日間において、Huntington Convention Center（写真-2）で開催された。Japan Session は 3 日目の午前中に行われ、熱心な議論が交わされた。本講演は立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。発表題目を表-1 に示す。筆者は“Precast Prestressed Concrete Building in Japan”という題目で、日本における PCaPC 建物の実例として、当社設計施工の国際医療福祉大学成田キャンパスの他、PCaPC 造と S 造によるハイブリッド構造（日亜化学工業諏訪技術センター）、および PCaPC 造による超高層建物（二子玉川ライズ II-a 街区）について発表した。



写真-1 Japan Session 発表者



写真-2 Huntington Convention Center

表-1 Japan Session 発表題目

Japanese Experience in Precast/Prestressed Building Construction	
Japan Practice of Quality Control in Production and Construction of Precast Members	Hiroshi Sakata, KEN KEN Co, Ltd. and Akiyoshi Fukuda, Oriental Shiraishi Corporation
Full Precast Concrete Construction for Building Frame with High Productivity and Versatility	Kazuhito Sugaya, Sumitomo Mitsui Construction Co., Ltd.
Precast Prestressed Concrete Buildings in Japan	Masayoshi Imamura, PS Mitsubishi Construction Co., Ltd.
Structural Design and Precast System of the Suita City Football Stadium	Hisato Okude, Takenaka Corporation
Japanese Experience in Prestressed Bridge Construction	
Recent Progress in Prestressed Concrete Bridges in Japan	Takumi Shimomura, Nagaoka University of Technology
In-situ Monitoring of PC Bridge Using Optical Fiber Sensor	Michio Imai, Kajima Corporation
A New Technology of Replacement of Obsolete Reinforced Concrete Slab Deck on Highway Bridge in Japan	Yosuke Urakawa, Oriental Shiraishi Corporation

3. PCa工場および現場の観察

国際会議の終了後、オハイオ州クリーブランドから、テキサス州サンアントニオまで南下した。米国におけるPCa部材の製造工程や使用状況を調査するために、3月5日～8日に掛けてPCa工場および建設中のPCa工法による駐車場の観察を行った。

3.1 Heldenfels Enterprises, Inc.

1990年設立のPCa工場（写真-3）であり、製作ラインはすべて屋外である。作業員80名によって、生産能力として年間42,000m³を支えている。なお、省力化のために、自己充填コンクリートを用いている。橋梁の桁部材や建築における階段部材などを製作している。



写真-3 Heldenfels Enterprises, Inc.

3.2 Tindall

主に柱、梁、壁材やDT版など建築部材を製作している。製作ラインには上屋が設けられており（写真-4）、生産能力は年間44,000m³である。建築部材の製作が多いことから、カラーコンクリートも取り扱っている。

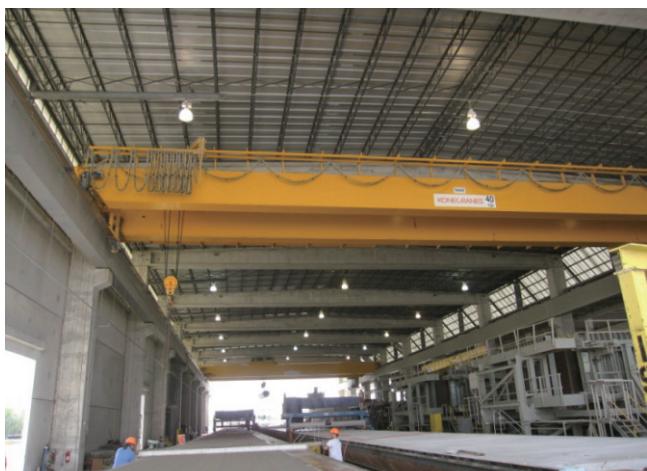


写真-4 Tindall

3.3 East Texas Precast Co.

年商60億円の大規模PCa工場であり、作業員は200名、生産能力は年間76,500m³である。製作ラインはすべて屋外である。運搬する部材（写真-5）の重量を軽減させるため、軽量骨材を用いたコンクリートによる部材の製造を工場自ら発注者に提案している。



写真-5 East Texas Precast Co.

3.4 Methodist Stone Oak Hospital Parking Garage

病院に併設するオールPCaによる4階建ての駐車場である（写真-6）。柱、梁、壁部材はスプライススリープを用いたPCa部材であるが、床板にはPCケーブルを用いたDT版（長さ18m、重量24.5tf）が採用されている。トッピングコンクリートにはひび割れ防止のために、繊維補強コンクリートを施工している。



写真-6 Methodist Stone Oak Hospital Parking Garage

4. おわりに

米国での国際会議において、日本のPCaPC技術について発表し、さらに米国におけるPCa工場の観察など貴重な経験をさせて頂いた。今回、御一緒させて頂いた皆様と、貴重な発表の機会を与えて頂いた関係各位に感謝を申し上げる次第である。

Key Words : PCI Convention, Japan Session, PCa工場



今村雅泰